



HISAKO ISHII

経済学部助教授。  
労働経済学と国際雇用論を  
担当。慶應義塾大学卒業後、  
コロンビア大学大学院に留  
学。Ph.Dを授与。留学中は  
各国の料理の食べ歩きを楽  
しんだ。帰国後、世界の料  
理の味を思い出しながら、  
創作料理を楽しむ。世界は  
美味で、面白い。もっと世  
界を探索してみたいか？



# ウイルスとペスト

## 石井久子

どちらも恐ろしい。その実態を知ったらもっと恐ろしくなる。これらはパソコン上でユーザーの望まない動作を勝手に引き起こすプログラムの総称である。

私が始めてウイルスなるものに遭遇してしまったのは1992年だ。自宅にはお気に入りのIBMのPCがあった。プリンターまでIBM製であった。その頃はドット・マトリックスのプリンターが主流で、いかにもパソコン文字の仕上がりがだった。そこで、提出用のプリントは大学のパソコン室でレーザー

プリンターを使用していた。当時、コロンビア大学で博士論文を書いていた。完成間際にそこで感染してしまったのだ。その時の驚愕は今でもはっきり覚えている。以後、セキュリティにはとても気を配るようになった。

一台目のPCはIBMとひそかに決めていた。それは懐かしい思い出があるからだ。大学卒業後、しばらく日本IBMに勤務していた。六本木の本社に通っていた。あるとき、メモリー付のタイプライターが発売された。私達が最初の購入者となった。が、修正箇所を何行目の何字目と数える必要がある。数え違いをして、文書がかえっておかしくなってしまう。私にはとても使える代物ではなかった。

やがて、タスク・フォースが結成され、カードがないと入れない部屋が同じ階に突如お目見えした。以前は日本からアメリカ本社への出張が多かったが、反対にアメリカ本社からの出張が増えた。同じ階にいながら、私達はその部屋で何の仕事をしているのか知らされなかった。その階には新製品を発表するまでの段取りを決める部門があり、アメリカ本社と日本の工場や営業所とのインターフェイス的役割を担っていた。そこには、いろいろな決まり事があった。例えば、お昼に席を立つときには、書類を全部机の中に入れておくとか、文書は必ずシュレッダーで破棄するとか…気が付くと、本社から出張してきた方々に、漢字を染めた手ぬぐいをお土産に差し上げていた。そうだ！あそこで、日本向けのPCスペックを創っていたのだ。

そして、10年以上の年月が過ぎた。ある時、ソフト会社のセキュリティ担当の人と話をしていた。曰く、「今はウイルスではなく、ペストが主流なのですよ！」「ハ？」

ペストとは、ウイルス以外の「悪意」のある不正プログラムをひっくるめて呼んでいるそう。なんと、ペストはそのファミリーを含めると10万種以上あるという。テクノロジーの進歩は目覚ましい。経済学では、この進歩をニュートラルという。それは、「使えよう」なのだ。便利だが、「悪意」に対しても便利なのだ。そして、その進歩に追いついていくのは「ハア、ハア」だ。

インターネットを使用する時は、特にクッキーの書き込み、スクリプトの実行、ActiveXに注意が必要だ。最近、インターネットが遅くなったと思う方は是非対策を！

